

# 予防接種を受けましょう

赤ちゃんが生まれながらに持っている免疫は、徐々に失われていくため、赤ちゃん自身で免疫を作り、病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。予防接種に対して正しい理解をし、子どもの健康に役立てましょう。



保健所保健予防課 ☎535-7710

## 予防接種を受けるには?

- ①市内の指定医療機関に予約してください。  
※医療機関によって、実施日や時間が異なりますので、事前にご確認ください。
- ②子どもの健康保険証と母子健康手帳を持参して、保護者(父・母)同伴で医療機関で接種してください。  
※保護者が同伴できない場合は、委任状を持参した親族等(祖父母等)が同伴すれば接種できます。

予防接種の種類と標準的な接種時期・回数	[ ]内は標準的な接種時期 ■ 定期接種の推奨期間 □ 定期接種の可能期間															
	2か月	3か月	6か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	13歳	16歳
ロタウイルス	● ① ● ②			● ③										● ④		
ヒブワクチン	● ① ● ② ● ③ ● ④															
小児用肺炎球菌ワクチン	● ① ● ② ● ③ ● ④															
B型肝炎	● ① ● ② ● ③															
DPT-IPV (四種混合)*1	● ① ● ② ● ③ ● ④															
BCG	● ①															
MR (麻しん・風しん)	● ①			● ②												
水痘 (水ぼうそう)	● ① ● ②															
日本脳炎*2	● ① ● ② ● ③			● ④												
DT2期 (二種混合)	● ①															
HPVワクチン*3 (子宮頸がん予防)	● ① ● ② ● ③															

※1:百日せきにかかったことのある人は、DTトキソイドによる接種も可能です。ポリオ単独ワクチンもあります。  
 ※2:積極的勧奨の差し控えにより接種が完了していない人は、特例措置により、接種を受けることが可能です。  
 ※3:これまで、積極的勧奨の差し控えが行われていましたが、4年4月1日から再開されました。詳しくは、9ページをご覧ください。

## 任意による予防接種

おたふくかぜワクチン予防接種費用の一部を助成します。  
 ■対象:1歳~2歳未満 ■実施場所:指定医療機関 ■助成額:3,000円(1人1回)  
 ■自己負担額:接種費用総額から3,000円を差し引いた額 ※おいた子育てはっとクーポンの利用可

## 再接種費用の助成

骨髄移植等により定期予防接種で得た免疫を失った子どもの再接種費用を助成します。  
 ■対象者:骨髄移植等の前に接種した定期の予防接種ワクチンの免疫消失をしたため、再接種が必要と医師が認める20歳未満の市民 ※予防接種の種類により年齢制限があります。  
 ■助成額:再接種費用として医療機関に支払った額(文書料は除く) ※事前に申請が必要です。

## 市民図書館からのお知らせ

### こどもの読書週間イベント

●こどもの日「おはなし会」  
 絵本や紙芝居などのおはなし会を開催します。  
 日 時:5月5日(木) ①午前11時~ ②午後2時~(いずれも30分程度)  
 場 所:①市民図書館コンパルホール分館 ②市民図書館(J:COMホルトホール大分内)2階 おはなしのへや

●人形劇「あかずきんちゃん」  
 熊本市の劇団ぱれっとが、昔話「あかずきんちゃん」を上演します。  
 日 時:5月7日(土) 午後2時~(午後1時30分開場)  
 場 所:コンパルホール3階 多目的ホール  
 定 員:100人  
 ※入場整理券は、4月15日(金)から市民図書館2階中央カウンター・コンパルホール分館で配布します。

市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。

### とりあえずとりのはなし

おくはらゆめ:作 あかね書房  
 この本はスズメ、メンフクロウ、ヤマシギが主人公の鳥の短編集です。ニンゲンのはなちゃんが描いた一枚の絵を通して、三つの物語が少しずつつながっていきます。どのページにもカラーの絵がたっぷり、楽しく読むことができます。



### 家族と話し合いをしていますか?

斉田英子:著 PHP研究所  
 コロナ禍でうち時間が増えたこの機会に、一番身近な家族と人生について語り合ってみませんか。この本は、話の切り出し方やマナーについても書かれています。意見の食い違いも楽しんで、家族みんなで幸せになるためのスキルが学べる一冊です。



人の生き方を考える  
 うわさを...  
 春の人事異動で、わたしが所属するグループの班長が代わることにになりました。「新しい班長、難しい人らしいよ」という、うわさが聞こえてきました。  
 新しい班長が着任すると、グループ内は緊張感に包まれ、忙しくしている班長に声を掛ける人はいませんでした。わたしも相談をしたくない企画を抱えていましたが、「誰かの次に...」と思い、時間だけが過ぎていきました。午後になり、いよいよ覚悟を決めて「見ていただきたい企画があるのですが...」と声を掛けたところ、「後で見ると、資料を机に置いて」と言われたのでした。  
 翌日の夕方、ようやく班長に呼ばれ「これ、会議でどんなふうの説明するの?」と尋ねられました。わたしは、資料を示しながら詳しく説明をしましたが、班長はしばらく考え「少し難しからせて」としか言わず、やっぱり難しい人なんだ...という気持ちになったのでした。

それから数日。いつまで待っても班長から呼ばれずイライラしながらも、わたしから声を掛けたら、また面倒なことを言われるのではないかと悩んでいたときでした。班長が「これ、もう一回見直して」と渡していた資料を返してきました。  
 「これだけ待って、やり直しか」と思いながら、資料を見てみると、所々にデータが追加されたり、大事な部分に下線が引かれたりしていることに気付いたのでした。  
 すぐに班長のところへ行き「ありがとうございます」と言うわたしに、班長は「時間がかかって悪かったな。無責任なことでは言えないから。この企画について、何かあったらいつでも相談してくれ。一緒に考えるから」と話したのでした。  
 話を聞きながら、うわさを信じて「班長は...」と決め付けていた自分にはっとしました。  
 うわさや憶測は、聞いた人の心に決め付けとして残ることがあります。その決め付けというフィルターは、相手の本当の姿を見えにくくします。  
 わたしたちの心にフィルターが掛かっていないかを見直していくことが、よりよい人間関係をつくることにつながるのではないのでしょうか。